

VOL.65

2009

SPRING

川崎いのちの電話

Kawasaki inochi no denwa

ひとりで悩まずに ☎ 044-733-4343



CONTENTS

特集 いのちの現場から

「被害者支援」

渡辺 治重さん 被害者支援自助グループ「ピア・神奈川」代表
勝島 聡一郎氏 医学博士 神奈川被害者支援センター理事

相談員リレーエッセイ

「Herb Tea」ハーブティー

インフォメーション

「天満 敦子 チャリティコンサート」のご案内

あなたがつらいとき、近くにいます。



毎月10日は、フリーダイヤル

0120-738-556

毎月10日 8:00～翌日8:00
(24時間・無料です)

ひとりで悩まないで、こころの苦しみを、お話しください。

自殺予防 いのちの電話

社会福祉法人 川崎いのちの電話

特集

いのちの現場から
被害者支援被害者支援自助グループ「ピア・神奈川」
代表 渡辺 治重さん インタビュー

Q:1995年に息子さんが交通事故にあわれて死亡された当時、警察は何も状況を教えてくれなかったんですか？

A:加害者はもう少しで二十歳になる未成年者でした。当時、主人が出張中で、事故の連絡を受け私と次男で病院に行きました。息子の遺体を家に連れて帰りたかったのですが、棺におさまった息子を知らない男性がどこかへ連れて行ってしまったのです。警察の検死のためでした。でも、それさえも教えてくれなかった。その後、警察の方が「重大な事故なので、相手は未成年だけでもきつと大人なみに裁かれますよ」と言ってくださいました。当然そうなるであろうと信じていましたが、告別式が終わったあとでも警察からは何も連絡がないのです。お聞きしましたら「加害者が少年法で守られているので、何も話せない」と言うのです。「目撃者がいたかだけでも教えてください」と頼んでも「いるかいなかさえも教えられない」と。「もし、あなたが何か知りたかったら、弁護士に依頼して検察庁でその事件について調べたものを探してもらえば、取り寄せられるものもあります」ということでした。私は驚いて、何のために法律があつて何のために警察があるのか、その時初めてそう思いました。すべての新聞には相手が未成年ということで、住所も名前も伏せられていました。息子は何も悪いことをしていないのに、住所も名前も大学も出ていました。

Q:何のために法律があるのかと。

A:そう思いましたね。ともかく加害者は今何をしているのか、無罪放免なのかそれとも刑務所のような場所に行っているのか聞いても、一切教えてくれない。最愛の息子が亡くなった事実だけはあつたのに。それから、自分と同じく被害にあつてつらい思いをしている人たちは、何も悪いことをしていないのに家の雨戸を全部閉めてこそこそと暮らしているのです。たしかに買い物に行くと、近所の人たちからは話しかけてもらえますが大勢の人がいるスーパーの中で「元気になったね」とか言われるのですよ。でも、全然元気にならないし、悔しいし、苦しいし、毎日毎日泣いて暮らしているのにそういうことを

言われると、人前でも涙が止まらなくなってしまつて。なるべく近所の人に会わないように生活していました。主人は私が何もしないものですから、会社から定時に帰ってきて掃除したり、洗濯したり、お茶碗洗ったりして。私は生きる気力が無くなって、朝起きて目が覚めると、生きていることに何の意味があるの、と泣いていました。あの頃はつらい毎日でした。それで私は、同じ思いをしている人たちと会いたい、話したいと思いました。それが活動の原点でしたね。

Q:事故で皆さんの人生が変わってしまったんですね。

A:主人はみるみるうちに痩せて、髪の毛があつという間に真っ白になりました。それをちゃんと見ているんですけど、かわいそうだとも思わない。自分の体から魂が抜けさつてしまつて、そこにいるだけという感じでした。私も真っ青な顔をして10キロ位痩せて、歯がぐらぐらするようになりました。考えてみれば歯も磨かない、一日顔も洗わない、お風呂も入っていかかわらない。ただ起きてまた泣いて、本当に信じられない生活でしたね。結局、加害者から謝罪の言葉はありませんでした。加害者の父親は、(亡くなった息子が)オートバイのハンドル操作が上手だったら死ななくて済んだ、自分の命は自分が守るものだと言っていました…。日本ではあまりにも加害者が優遇されています。被害者は何も擁護されていないのが現実でした。

Q:犯罪被害者等基本法が2004年に成立して、被害者がようやく救済されるようになりました。

A:事故や事件が起きて、加害者や犯人が捕まりますよね、警察が取り調べてその書類が検察庁にいきます。検察庁で起訴されて刑事裁判になりますが、刑事裁判は国が加害者を罰する裁判で、私たち被害者には一切関係なく行われていました。いつ裁判が行われるか知らせてくれませんでしたし、どういう刑が課されたのかも全く教えてくれませんでした。被害者は無視されていました。加害者に損害賠償を求める民事裁判以外は、被害者が参加

「ある日何の前触れもなく、大切な息子を奪われてしまったのです」。オートバイで帰宅中の大学生の息子さんを交通事故、それも未成年者の無謀運転による事故で亡くされた親御さんの言葉です。被害者やその家族の人生を一変させてしまう事故や犯罪。不幸にして被害を受け傷ついた心は、加害者、犯人に対する刑事・司法手続きや裁判、精神的不安や経済的負担、時には社会を巻き込むマスコミ報道等、二重、三重に苦しめられる実情があります。被害者には誰もが突然なり得るのです。被害者やその家族、また遺族の心の負担が少しでも軽くなるような支援体制が急務となっています。



できる裁判がなかったわけですよ。それで、刑事裁判に被害者や遺族が参加できないのはおかしくありませんか、と私たち被害者遺族が街頭に出て署名を集めたのです。それを法務大臣に提出して、やっとこういう形になってきましたけれど、私たちが声を出さなければずっと変わらなかった。私はアメリカに被害者支援を勉強に行きましたが、先進国では国で予算を立てて被害者支援をしています。日本でも支援をしなければ先進国の仲間入りができないという国の立場と、私たち遺族が活動してきた努力とが一致してやっと法律が変わってきました。

Q: 渡辺さんはどのような経緯でアメリカに行ったのですか？

A: 丁度その年に阪神淡路大震災があったんですよ。新聞に毎日被災者たちの悲しい気持ちが載っていました。私と同じ気持ちだと感じ、ずっとノートに書き続けていました。そのうちPTSDとか、トラウマとか心のケアということを新聞やテレビが報道しだして、私はそれらについて書かれている本を買って読んでみたのです。日本にも被害者擁護論があると書いてありました。本を糸口にして被害者電話相談のカウンセリング講習会の講義を受けたり、常磐大学での世界被害者学会に受講生として参加したりするうちに、アメリカで被害者支援全般を勉強する機会にも恵まれました。アメリカに行き、裁判所、検察、警察、自助グループなどを視察して、講義、研修を受けました。日本は二十年遅れていると言われました。

自助(セルフヘルプ)グループの重要性が、アメリカで研究されていました。ベトナム戦争では船で1ヶ月かけて兵士が送りだされました。戦場で生き残った兵士たちは

失意の中つらいとか生きていけないとか心の内を話し合っただけでアメリカ本土に帰って行きましたが、帰りの船内の、その1ヶ月の間に心が癒されていったわけです。そうして帰国した兵士の犯罪は少なかったそうです。それが、イランイラク戦争時には、飛行機で兵士が戦地に送られました。同じように失意のうちに帰ってきても、数時間なのでそれ程兵士同士が話し合う時間がありません。犯罪はすごく増えたそうです。アメリカではピストル犯罪、性犯罪、交通事故など、被害者や遺族のための自助グループが数多くあり、国から予算も下りています。グループは把握されていて、事件があった時には、こういう自助グループがありますよ、と被害者に警察でも検察でも教えてくれます。被害者は自分にあった自助グループを選べます。これだと思いました。日本でも被害者が話せる場を作ろうと考えてやってきましたが、その時は、自分の子どもの供養のためにと思い必死でやっていましたね。

Q: 不幸にも被害にあった方や、家族、遺族の存在に気づいたら、どのように接することが支援につながるのでしょうか？

A: 同じ被害にあった人から軽く「あなたの気持ちがわかる」とは言ってほしくないです。それよりもその悲しみを受け入れてほしい。「苦しみは理解してあげられないかもしれないけど、ほんとにつらかったね」と。あるいは、目と目を合わせてただ深く頭を下げてあげる、それだけで十分気持ちが伝わります。「なんて言葉をかけていいかわからない、でもあなたがそこにいてつらいことはわかっているからね」というメッセージに受け取れました。事件や事故には触れないで「こんにち。今日は寒いですね」「おからだ気をつけてね」。それだけでいいんです。逆に一番つらかったのは「早く元気になって」「頑張って」という励ましの言葉でした。

親しい人に「うちの息子は本当にやさしい子だったの。こうこうこうで」と話しますと、顔に「ああ、その話はこの間も聞いたよ」と出ているんです。そうするともう話せない。母親としては、ここまでしか生きることができなかった息子が、どんなにいい子だったか何度でも言いたいんです。聞いてわかってもらいたい。ただ、ただ、聞いてほしかったです。

私がうれしかったのは、ご近所の方やお友達が返さなくていい入れ物に、薄味のお惣菜、菜っ葉のゆでたものとか薄味で煮たおでんとか、持ってきてくださった。

弱った体にはおいしかったですし助かりました。そのようなお惣菜などを家に上がらないで、玄関先で渡して下さる。相手の負担にならないように配慮していただけたこともとてもありがたかった。

遺族に対しての言葉かけや対応についてですが、みなさん悪気があって「元気になる」「早く忘れて」とか言っているわけではないんですよ。(どう言えば良いのか)習ったことがないから、励ましの言葉しかないわけですよ。私も自分がこういう経験をしなかったなら、それがとおきの言葉と思って話したでしょうね。でも遺族には一番つらい言葉だったんです。たしかに遺族の側から、今まで発信していませんでした。話すことはつらいですけど、必要だとは感じています。今は、私自身が話していかなくてはいけないのだろうな、と思っています。



渡辺 治重さん
(わたなべ はるえ)

事故で長男を亡くし失意の日々から、同じ思いを抱える遺族に会いたいと被害者支援を学ぶ。涙をきっかけに、被害者同士が自身の体験を話し支え合う自助グループ活動を知り、2003年に被害者支援自助グループ「ピア・神奈川」を設立。

被害者支援自助グループ「ピア・神奈川」

犯罪や事故などで、突然命を奪われてしまった被害者遺族のための支援活動グループ。2007年12月に遺族の体験談をまとめた「涙を無理にとめないで」を出版。

TEL 045-312-1121(内線3502) 第2・4水曜日 11時～16時30分

事件・事故・災害後のこころの問題 神奈川被害者支援センターのメンバーから

私は神奈川被害者支援センターで面接相談を担当しています。相談に来る方は、被害者支援センターのボランティア相談員の方がまず相談を受け、私に依頼されて来た方たちです。医師が話を聞いた方がいいという方が、私のところに来ていると思います。被害者支援センターでは私のほかにも、臨床心理士が面接相談を行っています。

面接では、うつ状態がみられる方もいらっしゃいます。医療機関で治療を受けていてもメンタルクリニック等はどこも混んでいますので、初診の予約を取るにしても1週間先、3週間先となってしまいます。本人にしてみれば、「話を聞いてもらいたいのは今なんだよ」という状態なのですが現在のストレス社会の現状でもあります。さらに、受診したとしても、外来には患者さんがあまりにも多いため、精神科医は一人一人じっくり話を聞くことは困難です。そういった流れを経て、主治医がいて薬を飲んでいる方も多いですが、私の場合はそういう方々への補完的な支援をするという事も含めて、面接相談をしています。最初の面談では、1時間半位は時間をとります。まず私は自己紹介をして、自分がどういう人間かということを手にお話をし、ある程度安心していただいた上でお話をしていきます。2回目以降は少し話の整理をしていきます。2回目、3回目の面談でいろいろ話していくうちに、相談者自身も何が一番困っているかなど困惑した気持ちが自分自身で整理できるようになってきます。そうすると、受診したときに限られた診察時間内に、主治医に自分の気持ちをより多く、はっきりと話すことが出来るようになります。医師の立場で言うと、短い診察時間で患者さんの状態が出来るだけ分かることが重要ですし、相談者自身にとっても大変有益なことです。こういった主治医によりわかってもらえるようにすることも、私の面談の目的です。

被害者支援センターではボランティアが電話相談や他機関への紹介と、病院、裁判所、警察への付き添いなどの直接支援をしています。被害者やその家族は孤立無援の心境になりがちで、「被害者というのはこんなに大変だと思わなかった」とか、また、突然今までの生活と変わってしまっ



医学博士 勝島 聡一郎氏

精神保険指定医
神奈川被害者支援センター理事
横浜市戸塚福祉保健センター・センター長

る状態と言えるでしょう。ご遺族の場合は葬儀、法要、裁判等、考えていなかったことが目の前にあり混乱してしまいます。会社にも行っていない、夫婦・きょうだい・親子でダメージの度合いが違う、家族の誰かが寝込んでしまう等、思いも寄らないことが起きるのです。そういう時、生活支援等も大切になりますが、私の面接では、この様に困惑した気持ちを、いくらかでも落ち着いていけるよう、また、自分自身で気持ちを整理していけるようにすることも目的としています。

市民の皆さんは、身近な方が被害者や被害者遺族になってしまった場合、その方の話をじっくり聞いてあげること、また、毎日の生活が大きく変わってしまうので、日常生活の援助をしてあげることが大切だと思います。ただし、不用意な言葉かけによって、被害者にとっても不快な気持ちにさせてしまうこともあります。また、同じ言葉でも人間関係により受け取り方が違ってきます。日頃からの良好な関係があれば、皆さんからの声かけや、生活支援に対して、被害者やその家族の方々に安心して話が出来ますし、そのことによりこころの余裕も生まれてきます。災害被害などでも言えることですが、日頃から友人や近隣の方々と心の通う関係作りをしておくことはとても重要です。そういう視点で人と人のつながりをあらためて見直していただければと思います。

特定非営利活動法人神奈川被害者支援センター

民間の被害者支援団体として犯罪被害者等の支援、電話相談、面接相談、直接支援、自助グループ支援などを行っている。
神奈川県公安委員会指定「犯罪被害者等早期援助団体」



ハーブティー

Herb Tea

相談員のリレー エッセイ

たかが風邪、されど風邪

木枯らしが吹き始めたころに風邪を引きました。熱は出ず、喉の痛みと咳だけだったので、甘く考えたのがいけなかったのでしょうか、いつまでも治らず、とうとう年を越すほど長引いてしまいました。

病状が軽いとはいえ、罹り始めのときは本当にだるくて、起きているのもつらいほどでした。自分の身体なのにどうしようもなく持て余し、眠ってばかりの日が続いたあとと眠れない日々が続く、布団の中で寝返りばかり打っていました。何をやる気にもなれず、テレビも、新聞も、見るのもイヤ、考えるのもイヤ、身体が深いところに落ちていく…そんな感じでした。

電話相談で「身体が悪くてつらいんです」と訴えられることがあります。この時の私も「具合が悪くてつらい」としか言いようがありませんでした。いつも健康には自信を持っていたのですが、今回ばかりは「つらい」ってこういうことなのだ、と実感した次第です。

20年以上も前のことですが、知人のシングル教師に「子どもがいないと、親の気持ちとズレることがあるでしょ」と聞いたことがありました。「何でも同じ経験をしなないとわからないと思うの？」という返事に、ひどく恥かしく感じたことを覚えています。

「あなたは元気だからわからないでしょう」「若いからわからないでしょう」と言われることがありますが、確かに、その立場になってみて初めて実感できる、ということがあるのは事実です。でも、経験しなければ本当に何もわからないのでしょうか。人間は一人ひとり違います。顔も、姿も、年も、環境も、経験も。だから、似たようなことはあっても、全く同じ経験、感じ方、思い、はありえないのです。だからわかり合えないのではなく、わかり合うために、感じたり、察したり思いやることで補いあうのではないのでしょうか。

(中原区・とんとん)

今日のハーブ辞典

ヤロウ

たった一枚の葉を堆肥用の生ゴミの中に入れるだけで急速にゴミを分解する。草そのものが強い治癒力を持ち、そばにある植物の病気を治す。風邪や発熱、下痢の際、ハーブティーにして1日3回飲むと効果がある。



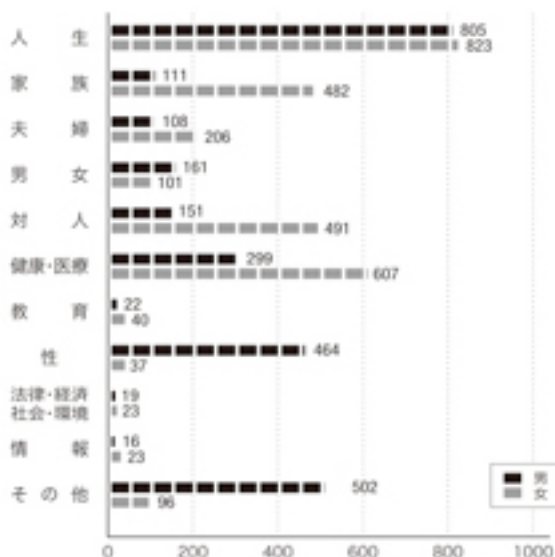
受信状況 2008年9月～12月

総受信数 **6,959 件** (1日平均 57.0件)相談数 **4,998 件** (1日平均 41.0件)自殺志向 **501 件**

命をつなぐ言葉

孤独でいたたまれない相談者は、安心を求めて電話をかけてきます。「以前に、相談員と交わした言葉を支えに、今日まで生きてこられました」。共感を得た言葉は心身を暖めます。現実と思うようにいかず心の隙間は簡単に埋まりませんが、そんな中で新しい有り様に思いを巡らせる瞬間があります。心を交わして生まれた言葉は何ものにも代え難いでしょう。

内容別・性別受信状況 (2008年9月～12月)

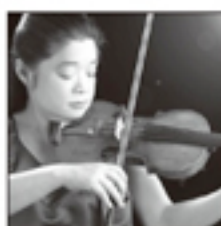


インフォメーション

「天満 敦子 チャリティコンサート」

- 【日時】 2009年7月11日(土) 開演 14:00
 【会場】 高津市民館(マルイファミリー12階)
 JR南武線「武蔵溝ノ口」
 東急田園都市線「溝の口」下車すぐ
 【料金】 4,000円 全席自由(未就学のお子様はご遠慮ください)
 【振込先】 郵便振替口座 川崎いのちの電話事業推進委員会
 NO. 00200-1-130682
 (振込み確認後チケット郵送)
 【問合せ】 川崎いのちの電話事務局(月～金 10:00～17:00)
 TEL:044-434-0253

天満 敦子 (てんま あつこ)



東京芸術大学大学院修了。海野義雄、故レオニード・コーガンらに師事。在学中に、日本音楽コンクール第1位、ロニーティボー国際コンクール特別銀賞等を受賞。以来、国際的に活躍中。CDも数多く録音し、＜日本のうた＞アルバム「ねむの木の子守歌」が第47回日本レコード大賞金賞を受賞。現在、東京音楽大学大学院教授。使用のヴァイオリンはストラディヴァリウス晩年の名作。

日本のいのちの電話の創始者のひとりである
 ヘットカンパさん(Ms. Ruth Hetcamp)が、
 2008年11月に旭日双光賞を受賞されました。

共同募金会より助成金

平成20年度共同募金分配金で
 事務局の収納庫を改修しました。



寄付感謝報告

2008年10月～
 2009年1月

川崎いのちの電話のために、温かい資金援助をいただきました。心から感謝し、ご報告いたします。この事業の発展にこれからもご協力くださいますようお願い申し上げます。

〔個人〕	岡本由利子	助川公子	門脇美智子	本崎光子	高橋史子	藤野竹子	河野恵子
(10月)	小森澄子	太橋世記子	中村泰夫・文子	井上信夫	浅田美子	河合真	唐戸利男
越水正明	久保美矢子	島崎祥子	鈴木恵子	志田美奈子	泰ひろみ	上嶋勝	坂本房枝
高木圭	立川一成	布施喜作	久岡久恵	岡田修二	相田孝代	嘉瀬敏	山田美和子
渡辺龍子	高橋勉	青木久栄	和田義盛	匿名3名	糸山恵美子	高橋フサノ	棚部哲雄
渡辺佳代子	山中光子	小林孝子	松尾信子	近藤俊朗	林茂	高橋久美子	広島晴美
渡辺三男	鈴木清	西村典子	佐藤正明	(12月)	森山定雄	小島良子	中里君江
山田美和子	匿名1名	大橋弥栄子	船川菊代	松本サチ子	菅沼和香子	尾上光子	城野政一
松林ゆり子	近藤俊朗	足立和三部	伊藤奎助	小林美年子	井上孝	森章	野村栄子
石井郭喜	(11月)	吉澤浩	森多美子	大崎富美子	長沼初	鈴木清	栗井美知子
吉崎隆男	大石真理	渡辺健夫	浅田美子	森岡きぬ	廣田しげよ	古館太郎	田中房治
藤原敦子	糸山恵美子	吉澤孝彦	大久保規矩夫	柳山勝雄	川北和子	吉野八重子	匿名1名
余岡はれみ	岡本由利子	高橋時雄	村上カズコ	奥秀子	浜崎すみ子	井上貴美子	近藤俊朗
渋谷初美	豊田君子	三宅晶子	黒川秀紀	若山愛子	矢田部光江	匿名1名	
稲葉武	佐藤甲子	岩崎かな子	西村俊子	村田紀子	齊藤加奈子	近藤俊朗	
川村啓子	山下秀男	内藤英俊	深佐隆英	井田光政	栗田武子	(1月)	

〔法人及び各種団体等〕 (株)東洋ロザイ 22期生歓迎会委員一同 木村和代他OB会有志一同 川崎稲田ライオンズクラブ
 川崎多摩ライオンズクラブ (株)神奈川武典 川崎市教職員組合 ケベック・カリタス修道女会 みかわ医院 (有)BLC
 日本キリスト改革派東京近畿教会 カトリック鷺沼教会 司法書士河野事務所 日本キリスト教団河原教会婦人会 川崎鷺沼ロータリークラブ
 心に平和をカレンダー委員会 たばな婦人学級 (有)すし助 神戸女学院文化振興めぐみ会神奈川支部 日本キリスト教団溝ノ口教会 寺嶋ヨガ教室一同
 川崎信用金庫武蔵小杉支店 日本キリスト教団河原教会 日本キリスト教団新丸子教会 日本キリスト教団元住吉教会
 日本キリスト教団元住吉教会・教会学校 川崎頭和幼稚園 日本キリスト教団川崎教会学校 日本キリスト教団川崎境町教会 共同購入

〔10万円以上の個人・法人及び各種団体等〕 ライオンズクラブ国際協会330-B地区5R-2Z(10万) 大本山川崎大師平間寺(10万)
 川崎西ロータリークラブ(25万)

合計 2,043,099円

編集後記

全く予期せぬ事故や犯罪で大切なひとの命を奪われ、理不尽な想いを抱える。それでもなお、生き続けなければならない。勇気を持って、つらい気持ちを話して下さった遺族のかたに心より感謝したい。うかつに口に出す言葉で、もう一度傷つけてしまうことを恐れて、かける言葉が見つからなかった。その苦しさが癒されることをつかの間でもあったらいいとひたすら願うのみ。(K)

ついこの間まで、平穏な暮らしが当たり前だったのに、2008年の暮からアメリカの金融危機の影響で雇用不安を訴える人が急増してきた。電話相談にも景気悪化を背景に切羽詰まった電話、自殺をはめかす電話が増えてきた。まさに電話相談の意義が問われる時だ。でも冬の夜には必ず春が来る。木の芽が膨らみ、桜の花が咲く。その日を信じて私たちは涙を流している方たちの傍らに寄り添う。(S)